あゆみ
青梅市立河辺小学校　学校便り
No.660　令和５年３月１日
青梅市立河辺小学校　校長　関谷　望

「ふるさと青梅」のビックイベント　～青梅マラソン～

校　長　　関谷　　望

２月１９日、コロナ禍で２年間開催延期となっていた第５５回青梅マラソンが開催されました。私が河辺小に赴任してきたからは初めての開催で、「河辺小は当日の受付会場となる」とお聞きしていたので、どのような状態かを見に来てみました。すると、思っていたよりもとても多くの方々が、河辺小の校庭、周辺の道路、速川公園などにいらっしゃる姿は圧倒されるほどでした。そして、青梅市の方やＰＴＡの皆様、地域の方などたくさんの方々がボランティアとして大会を支えている姿に、「青梅の街」の底力を感じました。

青梅マラソンの第１回大会は１９６７年です。河辺小学校は１９７１年の創立ですから、今から５０年少し前のこの時期、河辺の街がどんどん人口が増え、にぎやかになっていったことが想像されます。

１９６４年（昭和３９年）に日本で初めて開催された東京オリンピック男子マラソン競技で、陸上競技唯一のメダルとなる銅メダルを獲得した円谷幸吉選手を招き、「円谷選手と走ろう」を合言葉に行われました。それまでマラソンは「選手が走るもの」で、一般の人が参加できるマラソン大会は日本にはありませんでした。ですから、青梅マラソンは「日本初の市民マラソン」と呼ばれています。近年では、東京マラソンや大阪マラソンなど、日本各地にたくさんの市民マラソンがありますが、青梅マラソンはその先駆けで、ランナーの間ではとても有名な大会です。（「青梅マラソン」は30km なので、現在の陸上競技としては42.195kmの「マラソン競技」と区別して、「ロードレース」と区分されています。）

実際、私も東京都中野区の出身ですが、子供のころから「青梅マラソン」という名称は知っていましたし、以前に赴任していた伊豆大島で、青梅市への赴任が決まったことを伝えると「青梅マラソンで有名な街ですね」と言われるほどでした。

また、距離は３０kmとフルマラソン（４２．１９５km）より短いものの、アップダウンの多いコースは「きついコース」と言われています。そのため、多くの競技ランナーが調整のために利用することが多く、高橋尚子選手、野口みずき選手といったオリンピック金メダリストを始め、多くの有力選手が走る大会としても有名です。青梅マラソンをステップにその後の大会で活躍した選手も多くいます。

こうしたビックイベントが身近に感じられる地域に住んでいることは、子供たちにとって本当に素晴らしいことだなと感じます。同日開催のジュニアロードレースにも、多くの子供たちが参加してくれました。（5年男子では傳田　唯翔君が第2位!5年女子では河口　歩陽さんが第1位、佐々木　結絆さんが第3位と素晴らしい活躍でした!）

また、沿道で応援したり、大会の雰囲気を楽しんだりすることも、青梅マラソンや青梅の街を盛り上げることにつながります。盛会の大会を、見て、参加して、感じて、地元である「ふるさと青梅」への誇りを高めることができたのではないでしょうか。

私も現在は青梅市在住です。今後も「青梅学」を推進しながら、子供たちに青梅の自然や環境、文化、イベントなどを大切に思う気持ちを育んでいけたらと、思いを新たにする機会となりました。

令和４年度も最後の月となりました。コロナ禍ではありますが、皆様のご理解・ご協力で、多くの教育活動をスムーズに実施することができました。本当にありがとうございました。令和５年度も、どうぞよろしくお願いいたします。